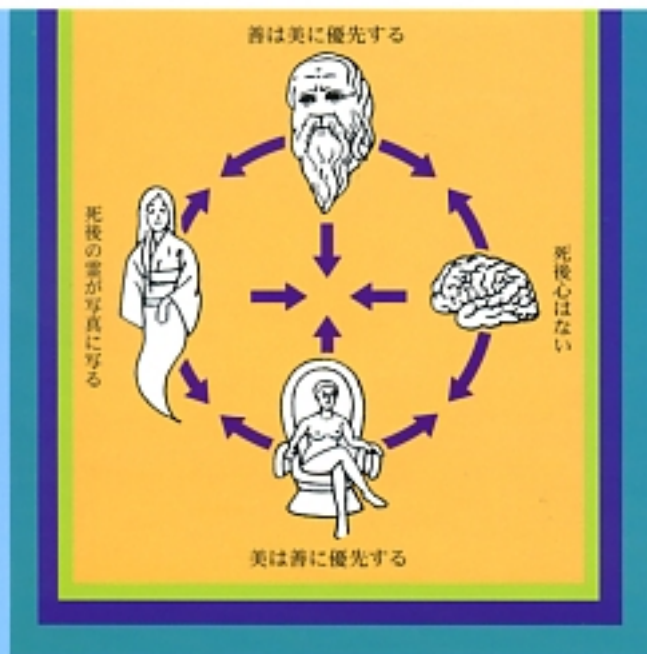


六次元弁証法

物心両界と理論物理と文化の統合予言の宇宙統一理論

山本 健造 著



福来出版

目次

序文

一章

六次元論に到達

真理を求めて神秘を科学した私の道	20
井戸の底で泣く母の夢と劣等児時代	20
精神感応の事実を知る	22
現代求聞持法（頭脳明晰法）のヒント	24
六次元精神分析研究の門出	24
精神分析研究のために教師の道を	25
六次元弁証法のヒントの動機	26
六次元弁証法の研究一途に	27
六次元原理のヒントを得るまで	29

二章

世紀の大発見「念写」

擬似科学と真正科学の判別……………	29
神通実験の実在と福来友吉……………	30
六次元論のヒントを得る……………	33
その時考えた六次元グラフ……………	36
① 五次元以下では神秘は解けない……………	36
② 六次元グラフについて……………	36
③ 現象点には物心両界が位置する……………	39
④ 物も心も六次元存在形式をもつ……………	39
⑤ 心は六次元認識形式を持つ……………	40
福来友吉の念写の発見……………	42
鋭い洞察力……………	42
世界最初の念写……………	44

福来受難……………46

念写の原板だけをいくら分析しても念写の真実はわからない……………46

福来の奇抜な発想、月の裏面の透視と念写……………48

最初の月裏面の念写……………49

第二回目、月の裏面念写公開実験とその真実証明書……………51

工学博士後藤以紀による「月裏面念写」と

「米宇宙船写真」との一致の数学的証明……………56

月裏面念写とアメリカの月球儀の合致の意義……………60

三章 カント哲学批判

カント認識論の空虚性について……………66

カントは透視を認識の中に入れなかった……………68

カントは感知 認知までを認識とし 直観を入れなかった……………71

真 善 美 勤に没入する勤の偉大さ……………73

四章

六次元哲学を悟っていた先哲たち

カントの道徳の冷厳性について……………	74
シラーのカントへの酷評……………	76
偉大なるカントを今日あらしめたし……………	77
心も物も対等の位置にある……………	78
認識論と実践理性批判とは矛盾してはならぬ……………	79
インドの古典に六次元弁証法すでにあり……………	84
先哲の偉大さに驚く……………	84
インドの最古典リグ ベーダに秘められた真理に驚嘆……………	86
釈迦の佛教原理に秘められた弁証法……………	89
龍樹の逆立弁証法……………	91
密教の各具曼荼羅に秘められている弁証法……………	95
空海の六大周遍論……………	99

日本の古典の中にも六次元弁証法の萌芽あり……………	102
ハイゼンベルクは四分の一しか認識できない事を物理的に証明した……………	105

五章

六次元哲学

六次元認識論と意識存在論……………	110
四つの認識形式と四つの存在形式……………	110
六次元認識論と理論物理学……………	115
① 認識には自然の制約がある……………	115
② 現代物理学の二重性と六次元認識論……………	115
③ 光子は意識を持っている……………	118
④ 宇宙の真理は四制約の止揚で直観する……………	121
⑤ 物質は波動的性質を持つ……………	124
⑥ 時空間超越の念写……………	126
⑦ 意識場絶対速度F……………	130

⑧ 超物理現象のメカニズムの意識場	132
⑨ 究極のところ物質と意識場は同質である	134
⑩ 全体 部分 重力は同時	136
意識場が起す超常現象	138
プリブラムのホログラフィ理論では意識はとけない	138
ホログラフィの理論では透視も念写も説明できない	139
生物の心が外界に自由を求めてひろがる	142
三段階の脳の意識場について	143
火事の先日その地下より逃げた蛇の群れ	143
爆破される寸前、逃げたネズミの群れ	144
遠島の猿の間に起るテレパシー	145
帰巢本能で解けない鳩	147
二四〇〇キロを走って主人を探した猫	148
真の自由への悟り	150
動物に自由意志はない	150

本来人間の自由には節度がある	151
人間は迷う自由と悟る自由を持つ	152
思いつきの民主主義の破綻	154
日本の古来よりの民主主義	155
意識の自由性について	156
肉体滅後も意識場は残る	157
六次元本体論のあらまし	159
先哲の努力	159
物心一如の本体を具体的に求めてきた	160
六次元宇宙の本体	161
宇宙の本体は自由である	162
宇宙の本体は四つの衣をまとう	163
六次元の流体から固体化へ	165
六次元エーテルの設定	166
泥棒に精神エネルギーを送る	166

第六章

学際曼荼羅

無意識の同一化現象……………	168
意識の無意識化について……………	170
大宇宙は六次元エネルギーで満ちている……………	171
六次元エネルギーから六次元弁証法まで……………	173
認識より志向へ……………	175
三角形思考以下は抽象的独断である……………	175
真理は四角錐思考の積み重ねで直観せよ……………	177
大脳生理学と心靈科学の正面衝突……………	183
死後五年、霊の存在証明事件……………	183
裁判記録にある幽霊存在の証明……………	184
死後の生まれ変わりは果たしてあるか……………	186
生まれ変わりでなく魂（意識場）の念写である……………	186

DNA切断実験	187
肉体念写の起るわけ	188
生まれ変わり思想の反倫理性	189
来世にやるから	190
生まれ変わり思想から無差別殺人を起した	191
芸術道德の根拠まで危うくする	191
釈迦は生まれ変わりを否定した	192
大脳生理学と美学の衝突	194
美は如何にして生れるか	194
今の脳生理学では美は解けない	196
意識場の超物理性と脳細胞	198
美学と大脳生理学の正面衝突	202
大脳生理学と倫理学の衝突	203
倫理学と美学の正面衝突	206
善と美は二律背反か	206

七章

六矛盾律と六次元弁証法的発展

カントとシラーの正面衝突	208
道徳と芸術の止揚と六次元弁証法	209
倫理学と心霊科学の矛盾	213
宿命論の非倫理性	213
必然と偶然とはどう絡み合うか	215
倫理学に背く心霊科学	218
美学と矛盾する心霊科学	222
矛盾曼荼羅を乗り越えて学際曼荼羅へ	225
文化の六矛盾と物質界の六が対応するのではないか	230
矛盾する四文化圏は六矛盾律に支えられて中心に統一される	232
文化の三と物の三の対応について	235
六次元弁証法と元素の周期表	237

①	ヘーゲルよりマルクスへ	237
②	六次元弁証法的発展	239
③	八と八の対応があるかも知れぬ	241
	相対は絶対に通一される	242
	生命の円環と二十一世紀への指針	244
	むすびのことば	249